

2019年10月1日

飼料添加物メチオニン事業の競争力強化について

住友化学は、このたび、飼料添加物メチオニン事業において、1966年に愛媛工場で生産を開始して以降、順次増強してきたプラントの内、生産効率の低い旧式のプラントについては本年9月末をもって停止し、コスト優位性のある他のプラントも必要に応じた生産体制の見直しにより、競争力を強化することといたしました。

メチオニンは動物の体内では合成することができない必須アミノ酸の一種です。トウモロコシ等を主原料とする鶏の飼料はメチオニンが不足していることが多いため、世界的な人口増加や経済成長などにより需要が拡大する鶏肉や鶏卵の生産性向上を目的に飼料添加物として広く使用されています。そのため、メチオニン市場は、この十数年間で倍増するなど、年率で約6%、数量換算では年間約8万トンもの勢いで成長しており、この先も同程度の伸びが期待されています。

住友化学は、メチオニン事業において、原料から一貫生産している強みに加え、長年培ってきた当社独自の生産技術を基に、原料と用役のロスを大幅に削減した年産10万トンの新系列を2018年10月に完工しました。現在、総合化学メーカーとして保有する特殊な廃液・排ガスの取り扱いのノウハウを生かし、高度な環境・安全対策、品質管理体制の下、安定的にフル生産を継続しています。一方で、今回、操業開始から50年以上が経過し、維持・補修費が年々増加するなど生産効率の低いプラントについては本年9月末をもって停止したほか、他の生産プラントも必要に応じた生産体制の見直しを行うことで、競争力のさらなる強化に取り組むこととしました。

住友化学は、これからも世界約90カ国の顧客にメチオニンを継続的に提供することで、世界規模での安全・安心な食料の供給に貢献してまいります。

以上